

学校教育目標	未来に向かって力強く生きる ひと輝く 和土っ子の育成
目指す学校像	一人ひとりがキラリと光る学校
重点目標	1 自分を大切に、相手を大切に学び合う学校 (すべての児童の可能性を引き出す学びの推進) 2 心身の健康を高め、思いやりの気持ちを育む学校 (健やかな心身を育て、安心できる学校の推進) 3 信頼され、地域とともに歩む学校 (小・中一貫教育「花笑み教育」の推進 コミュニティ・スクールの充実) 4 きれいで、安心安全な学校 (施設設備の適切な維持管理 計画的な予算執行) 5 「チーム」和土でつくる持続可能な学校 (学び合い高め合う組織の構築)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月17日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ○多くの児童が、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査では全国の平均値を、さいたま市学習状況調査では市の平均値を下回っている。 〈課題〉 ○児童に学ぶことの楽しさを十分に味わわせ、主体的に学ぶ意欲を高める必要がある。 ○主語と述語の関係を十分に理解できるようにする必要がある。 ○反復や習熟に取り組む時間や、自らの学びを振り返る時間の確保が必要である。	・児童理解を一層進め、個々の学習指導と支援をより大切にしたい授業改善の実施	①個々に応じた細やかな学習指導と支援の実施 ②めあての明確化と振り返りの時間の確保の実施 ③各教科の指導や教科横断的指導において、主語と述語を考えて文を読んだり、文を書いたりする取組の推進	①児童の学校評価 No11「粘り強い学習」と、No12「わかりやすい授業」で肯定的評価がともに93%以上になったか。 ②めあての明確化と振り返りの時間を確保した授業に取り組むことができたか ③各教科で読解力向上に係る取組を実施できたか。	○児童の学校評価No.11は肯定的評価97%で、No.12は93%であった。 ○児童が学ぶ楽しさを感じられるような授業づくりを進め、協働的な学習形態の授業に取り組んだ。 ○月曜朝の読書タイムを新設し、NIE実践新規指定校の実践をした。	A	【課題】 ・読解力(情報を理解し、自分なりに解釈し、活用する)の向上 【改善策】 ・各教科の指導や教科横断的指導における読解力向上の取組の推進 ・児童主体の授業づくり
		・ICTを活用して、児童と教師が共に学び合う授業の推進	①学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した授業改善と、目標をもって主体的に学ぶ授業の実施 ②ICTを活用した授業展開や、意見交流など児童同士が対話し、学び合う授業の実施	①教職員の学校評価で学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を取り入れた授業に関する項目で肯定的評価90%以上になったか。 ②児童の学校評価No.14「ICT等の活用」で肯定的評価98%以上になったか。	○学年に応じて、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」やICTを活用した授業を進めた。 ○教職員の学校評価で学びのポイントを取り入れた授業に関する項目では肯定的評価100%であった。 ○児童の学校評価No.14は、肯定的評価97%であった。	A	【課題】 ・主体的に学ぶ児童の育成 【改善策】 ・学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した学びの推進 ・ICTを活用した学びの推進
2	〈現状〉 ○クラス替えがなく、児童同士お互いに関わり合っている様子が見られる。 ○児童一人ひとりに声をかけ、目を配り、安心できる信頼関係の構築に努めている。 〈課題〉 ○良好な友達関係を築き、継続できるようにすることが必要である。また、保護者との連携も大切に、共通理解を図る必要がある。 ○児童のよいところを伸ばし、自信をもたせ、自分の夢に向かって努力する態度を養うことが求められている。	・一人ひとりのよさを認め合う豊かな人間関係づくりの推進	①スマイルウィーク等を活用した児童一人につき各学期1回以上の面談の実施 ②和土小スマイルプロジェクトの着実な実施 ③自立と挑戦を促す指導(コーチング)の実践	①児童の学校評価 No1「学校へ行くのが楽しい」で肯定的評価92%以上になったか。 ②和土小スマイルプロジェクトが実施できたか。 ③場面を捉え自立と挑戦を促す指導(コーチング)を個々に行うことができたか。	○児童の学校評価No.1は肯定的評価92%であった。 ○和土小スマイルプロジェクト等を着実に実施し、児童理解に努めた。 ○コーチングを個々に行うとともに温かい人間関係を育む学級経営に取り組んだ。	A	【課題】 ・一人ひとりのよさを発揮できる学校づくり 【改善策】 ・教職員が児童と向き合う時間の確保 ・温かい人間関係を育む学級経営の推進
		・共に学ぶ喜びや運動の楽しさを味わわせる授業づくりの推進	①児童への積極的な称賛の言葉がけの実施 ②体育科の授業で、安全な活動の場を確保しつつ、全力で取り組む運動の実施	①児童の学校評価No.15「先生の称賛」で肯定的評価93%以上になったか。 ②体育科の授業において、安全で工夫した活動の場で、全力で取り組む運動が実施できたか。	○児童の学校評価No.15では肯定的評価91%であった。 ○授業や、日々の声掛けや面談では、児童の頑張りが成長を積極的に称賛した。 ○年間を通して、児童は各種運動キャンペーンに楽しみながら取り組んでいた。	B	【課題】 ・「楽しい授業づくり」の継続 【改善策】 ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の研究実践の継続
3	〈現状〉 ○学校運営協議会を各学期に一度開催して、学校・家庭・地域の役割について熟議をしている。 ○異校種(保・中・高)間の交流ができています。 〈課題〉 ○和土地域のアイデンティティ(地域のよさや誇りへの理解・地域への愛着)を育てていくことが求められている。 ○「和:Partnership」を育むため、小・中一貫教育「花笑み教育」を計画的に推進する必要がある。 ○保護者や地域の方々の教育活動への理解を図ることが求められている。	・小・中一貫教育「花笑み教育」の推進	①城南中・新和小と連携した、小・中一貫教育「花笑み教育」の推進と情報発信 ②スクールサポートネットワークでの「和土地域で育てたい子どもの姿」の共有と、学校、家庭、地域における具体的な取組の明確化	①小・中一貫教育「花笑み教育」を計画的に実施できたか。 ②児童の学校評価で、和土地域のアイデンティティ(地域のよさや誇りへの理解・地域への愛着)に関わる項目で肯定的評価80%以上になったか。	○児童の学校評価No.9「和土小地域へのよさ」は肯定的評価80%、No.13「花笑み教育の取組」は90%であった。 ○「育てたい子どもの姿」を学校・家庭・地域で共有し、児童会でもコミスクテーマ「明るく楽しく元気に挨拶ができる和土っ子」に取り組んだ。 ○地域の社会教育人材や企業・外部機関と連携しカリキュラムマネジメントを全教職員で行った。	A	【課題】 ・和土地域のアイデンティティの醸成 【改善策】 ・コミュニティ・スクールと「花笑み教育」の一体的充実
		・教育活動等の情報発信の推進	①学校だより・学校Webページ等を活用した、教育活動の情報発信 ②デジタル連絡ツールを活用した情報発信・情報共有の工夫	①教育活動を計画的に情報発信できたか。 ②保護者の学校評価 No1「教育活動の発信」で肯定的回答が94%以上になったか。	○保護者の学校評価No.1は約98%であった。 ○広く地域や保護者にお知らせする内容は学校Webページで情報提供し、学校だよりや週予定表等は手紙配信アプリで保護者に発信した。	A	【課題】 ・教育活動の情報発信の工夫 【改善策】 ・手紙配信アプリの活用
4	〈現状〉 ○様々な施設設備に、修繕したい箇所がある。 ○教職員による定期安全点検と、管理職による敷地内点検や地域巡りを実施している。 ○個人情報管理し、定期的に点検をしている。 〈課題〉 ○計画的に施設整備や、個人情報の管理点検を行い安心して活動できる環境を整備する必要がある。 ○安全に対する意識を向上させ、万が一事故が発生した際には、教職員が適切な行動がとれるようにする必要がある。	・児童が安心できる環境整備の実施	①施設設備の計画的な安全点検、日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底した危機管理体制の整備 ②施設設備に関する教育委員会との連携や、学校DX推進本部を活用した情報セキュリティの整備	①全職員による安全点検の実施と、修繕等が必要な箇所への1日以内の対応ができたか。 ②計画的な施設設備の管理や、個人情報の管理ができたか。	○修繕についてはその日の対応を進めた。 ○業務職員・警備員・管理職による朝の校内外の安全点検と、毎月の教職員による安全点検を実施した。 ○学校文書の保管年限の確認と処分、データ管理による個人情報管理を行った。	B	【課題】 ・安心安全な施設の維持管理 【改善策】 ・毎日の校内巡視と教職員による毎月の安全点検の着実な実施
		・安全に関する教職員の意識の向上	①AED、エビペン、不審者対応等、安全に関わる教職員研修の実施 ②学校・保護者・地域と連携を図った、安全教育の継続的な取組	①安全に関わる研修を5回以上できたか。 ②保護者の学校評価No.7「学校は子どもの安全や健康を十分配慮して教育している」で肯定的回答が90%以上になったか。	○安全に係る研修(火災・地震対応、AED活用・心肺蘇生対応、アレルギー・エビペン対応、不審者対応)を行った。 ○保護者の学校評価No.7は肯定的回答が約94%であった。	B	【課題】 ・児童が安心できる学校づくり 【改善策】 ・「危機管理対応マニュアル」の活用 ・不測の事態への日頃からの準備
5	〈現状〉 ○教育委員会の施策に基づき、授業改善に取り組んでいる。 ○小規模校としての業務改善を進めている。 〈課題〉 ○ICTを活用した学びや、生徒指導等に対して、指導力を常に向上していく必要がある。 ○対話に基づく受講奨励を通して、教師の主体的な学びが求められている。 ○well-beingとなる働き方改革につながるよう、計画的に業務を遂行する必要がある。	・学校課題研究等を活用した教師の主体的な学びの推進	①ICTや学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した公開授業・研究授業の実施 ②教職員同士の年3回以上の授業参観の実施 ③対話に基づく受講奨励による、主体的な教師の学びの推進	①ICTや学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した公開授業・研究授業等が実施できたか。 ②教職員相互の年3回以上の授業参観ができたか。	○学校課題研究で「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」をテーマに、計画的に公開授業(10回)と研究授業(10回)、研究協議会を実施した。 ○教職員相互の授業参観を各自3回以上実施した。	B	【課題】 ・学校課題研究のさらなる推進 【改善策】 ・教職員相互の授業参観実施と・研究協議会の工夫 ・OJTの推進
		・教職員の資質向上につながる働き方改革	①時間のマネジメントによる業務改善の推進 ②自己研修への積極的な取組と、学んだことを生かした情報発信による学校の教育活動の活性化	①教職員の時間外在校時間が昨年よりも10%減らすことができたか。 ②教職員の学校評価「研修」の項目の肯定的評価が90%以上にできたか。	○校務用端末の活用や業務の効率化により、時間外在校時間平均は昨年度よりも35%減った。 ○教職員の学校評価「研修」項目の肯定的評価は100%であった。	A	【課題】 ・業務改善と教職員の資質向上の推進 【改善策】 ・研修受講奨励に基づく、教師の主体的な研修の推進

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

